

2018年7月  
1143号

# 百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5  
(一冊の会研究室)

## 心の復興を支援する

～釜石市復興祈念樹植樹～

2018年7月11日、東日本大震災から7年4ヶ月。釜石市の<sup>うのすまい</sup>鶴住居小学校正門前に復興祈念樹「雪香プロスパーポローニア」を植樹してまいりました。故相馬雪香先生にちなんだ名前を冠した「雪香プロスパーポローニア」はたいへん成長が早い桐で、復興が早く進むようにとの願いを込め、東日本大震災での津波の被災地全ての市町村に植樹することを目指しております。震災による津波で大きな被害を受けた釜石市立釜石東中学校と鶴住居小学校は、長らく仮校舎で授業をしておりましたが、昨年鶴住居町の高台に新校舎が完成しました。高台から鶴住居の町並みや海、ラグビー場を一望する校舎は、災害時の避難場所としての機能も併せ持ち、地域に開かれた復興のシンボルとなりました。

復興記念植樹は鶴住居小学校の正門で開催。この正門は、釜石東中学校と鶴住居幼稚園とも共有となっております。会場には、ハンカチプロジェクトのハンカチがたくさん飾られていました。ハンカチプロジェクトは、東日本大震災の被災者達の心の支援に繋げようと一昨年スタートしたもので、自立して行動を開始した支援者達は黄色いハンカチ大の布に東北被災者へのメッセージを、被災者達はピンクの布に支援を受けてのメッセージを書き、その布をロープで繋げるチャレンジです。また、一昨年 FAWA (Federation of Asia-Pacific Women's Associations アジア太平洋女性連盟) に参加した際に呼びかけ、海外からのメッセージもたくさん集まりました。海外からのメッセージは緑の布に書いていただいておりますので、当日は黄、ピンク、緑のハンカチがロープでつながれ雄大な景色の中にはためいていました。

東北は、まだ梅雨明けしておりませんでした。当日は好天に恵まれ大自然の美しさとハンカチプロジェクトの風景に新鮮さと喜びを感じました。

復興記念植樹の式典は鶴住居小学校が参加して開催され、まず教育委員会の佐藤教育長が「いただいた3本の苗木には鶴住居小の子ども達が心美しく、そして、香り高く、まっすぐな人になってほしいという願いや祈りが込められています。大木になるまで、後世に伝えながら立派に育ててほしいと思います。」とご挨拶されました。桐の木の花言葉は、心美しくそして香り高く、まっすぐに伸びる、という意味があるそうです。

続いて、一冊の会大槻会長が挨拶をいたしました。一冊の会は、どこまでも国連を中心にいろいろな活動をしていること、東日本大震災直後から支援活動を始め今回が125回目となることを伝えました。釜石でも残念なことに千人を超える尊い命が失われる悲劇となりましたが、釜石の防災教育が素晴らしく、それでも大変少なくすみました。防災の模範を示してくれた釜石を見習おうと全国で防災教育・訓練が行われるようになったことを子供たちに伝え、植樹に際し、皆様の真心に深く感謝申し上げます。

続いて、レソト王国大使館 藤江通商・投資推進担当官が、日本に到着したばかりでスケジュールの都合で残念ながら出席できない新任の大使にかわり、お預かりした手紙を代読し「これからも引き続き釜石市を支援して参



黄色は支援者、ピンクは被災者、緑は海外からのメッセージ

ります」とご挨拶されました。

一冊の会小山副会長が、尾崎記念財団のメッセージを披露し、最後に、釜石市長からご挨拶をいただきました。

釜石市長挨拶：レソト王国大使からのメッセージ並びに雪香プロスパーポローニアの苗木を贈呈していただき、心から厚く御礼申し上げます。遠いところ、レソト大使館、一冊の会の皆様、ありがとうございます。被災地に125回もご足労頂き、誠に有難く、被災地を代表して心から御礼申し上げます。

復興は道半ばですが、順調に工事が進んでいます。子ども達は避難場所を求めて高台をめざして避難したため、皆助かりました。3.11の明るい象徴的な場所となりました。一方、防災センターでは、多くの方が亡くられ、光の部分と陰を併せ持っています。2年前に高台の山を削って、小中学校が開校しました。子ども達も参加していますが、スポーツに勉強に頑張っています。災害はいつ起こるかわかりません。3.11の記憶・教訓を胸に刻み、町づくりに精一杯努力して参ります。

尾崎行雄先生の三女・相馬雪香さんのご活躍・思いを桐の木に託され、植樹できたことは、これからも大事にしていかなければなりません。地域の方と一緒に、木を大事にしながら、釜石の発展の為に尽力してまいります。大使にもお伝えして頂ければ光栄です。レソト王国、一冊の会の益々のご発展を祈念いたします。



野田武則釜石市長



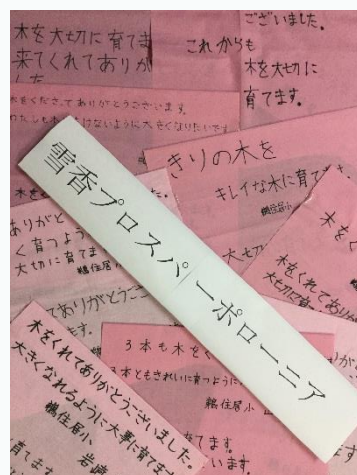
レソト・ハットを大槻会長、小山副会長から小学生代表に贈呈し、児童代表として児童会長の佐々木大和さんから「今日は遠いところ、桐の苗木を持ってきて下さりありがとうございます。みんなに、すごい木だと思われるように育てます。今日はありがとうございます。」とお礼の挨拶をいただきました。

7年後は成人式です。木に負けない位、大きな大人になっているといいですね、と司会が声をかけられていました。そして、復興祈念樹である「雪香プロスパーポローニア」の3本の苗木を3つの班に分かれて植樹いたしました。

後日、ピンクのハンカチが事務所に届きました。子ども達からのお礼と、植樹した復興祈念樹を大切にするというメッセージが書かれており、心があたたまりました。

また、開催前には釜石市復興推進本部復興管理監である竹澤さんが、復興中の町の様子を案内してくださいました。お互いに寄り添うことで「復興記念植樹」も「ハンカチプロジェクト」も大成功し、おだやかで、やわらいだ心がひとつになりました。事前準備をして下さった皆様に心から感謝申し上げます。

釜石市は来秋、日本で開催されるラグビーW杯の開催都市の1つとなっており、鶴住居小学校と釜石東中学校の跡地に防災機能を有するスポーツ公園を整備し、復興スタジアムがもうすぐ完成予定です。釜石市は、かつて日本選手権7連覇を果たして「北の鉄人」とも称された新日本製鐵釜石の地で、ラグビーが盛んな街でした。きっと来秋のはラグビーで大いに盛り上がることでしょう。



鶴住居小学校の皆さんから届いたメッセージ



宝来館の前で。女将の岩崎さんを囲んで

被災地各地、ハード面の復興は整ってきましたがソフト面はまだまだです。今後も東日本大震災被災地の復興を祈念し、沿岸地域への植樹を進めてまいります。



ほぼ完成した釜石鶴住居復興スタジアム  
(釜石市ホームページより)

文責：平間研究員 編集：赤田研究員・城杉研究員